

「食」と発達、そして健康を考える

—母親の栄養と赤ちゃんの発達と成長後の健康—

発達障害のある子どもの増加傾向の一因として、近年の低出生体重児の増加との関連が指摘されています。本講演会が、低出生体重で生まれてくる赤ちゃんの増加の実態とその原因や要因、母胎内の赤ちゃんの低栄養が招く出生・成長後のリスク、そして医療現場における発達障害や健康障害の最近の実態について学び、問題を共有し、的確な対応を考える機会になれば幸いです。

○日時：2008年6月28日（土）13:00～17:00 入場無料

○会場：早稲田大学小野記念講堂（早稲田キャンパス27号館 小野梓記念館地下2階）

講演会趣旨と問題提起

坂爪 一幸氏（早稲田大学教育総合研究所長
教育・総合科学学術院教授）



I 基調講演

母親の栄養と赤ちゃんの発達と健康
—低出生体重児の増加とその影響—

福岡 秀興氏（早稲田大学総合研究機構
胎生期 h° ジエネティクス制御研究所客員教授）

II 教育講演

1. 赤ちゃんの環境と精神発達障害の発症
— h° ジエネティクス医学の立場から—

久保田 健夫氏（山梨大学大学院
医学工学総合研究部 教授）

2. 子どもの発達障害の最近の動向
—精神医学の立場から—

市川 宏伸氏（東京都立梅ヶ丘病院 院長）

3. 大人の健康障害の最近の動向
—健康医学の立場から—

大貫 学氏（埼玉医科大学
総合医療センター神経内科 講師）



主催：早稲田大学教育総合研究所

共催：早稲田大学教職課程・教育学部・大学院教育学研究科・教職研究科

問い合わせ先：早稲田大学教育総合研究所（16号館209室）

TEL：03-5286-3838 E-Mail：IASE@list.waseda.jp